



豆腐づくりを通じて地産地消について考える子どもたち

布野の食と脱温暖化を考える会は、産業の中心が農業である布野の特徴を生かし、「食」を切り口に、平成十八年九月から活動を展開している協議会。発足当時から、地元道の駅「ゆめランド布野」でのアイドリングストップ運動や地場産物の消費の啓発運動などを行っている。

昨年度は、明治時代の布野を舞台とした小説「荷車の歌」を題材に、「環境紙芝居」を作成し、地元の小学校で環境学習を展開した。昔のくらしと現代を見比べ、賢く省エネしながら、楽しい暮らしをする知恵を学んだ。併せて、大豆の植え付けから収穫、豆腐づくりまで、年間を通して授業を実施した。

これらの熱意ある取り組み

TEAM
地域 エコ アクション ミーティング

最前線

～その後の脱温暖化物語～
⑨ 布野の食と脱温暖化を考える会

みよし環境大賞「脱温暖化部門賞」に輝く

地場産物の消費運動などを展開中

が評価され、二〇〇八年度の
みよし環境大賞「脱温暖化部
門賞」を受賞した。みよし環

境大賞は、個人、団体及び事業者が三次市内で実践活動している活動実績を表彰するもので今年度で四年目になる。十一月二日に、三次環境クリンセンターで開催された「みよし環境フェスタ2008」で表彰式が行われた。

表彰を受けた代表の麻野恭子さんは「地道な活動の積み重ねが評価されたと感じている。会員の仲間たちや地域の人の協力で、いろんな活動を展開できた。今後も食を切り口に、ライフスタイルを見直すきっかけを作っていきたい」と喜びを語った。

今年度は、農作業に廃油で作ったBDFを使用する人を増やすことを目指して、BDFの学習会を予定している。BDFを使ってできた野菜を販売したり、学校給食への供給や地場産物の推進を拡大して、人にも地球にも優しい健康な取り組みを今後とも継続していく。

(脱温暖化センターひろしま)

みんなの助っ人!
環境
カウンセラー

ネットワーク
10年の歩み

環境カウンセラー制度が平成八年度にスタートして、今年で十二年。この間、広島県内の環境カウンセラー同士のネットワーク組織として、平成十一年一月十一日に「環境カウンセラーひろしま」を立ち上げ、来年一月で十周年を迎えます。

今回は、「環境カウンセラーひろしま」の十年を振り返ってみます。

会員
設立当初、会員数十三人の

未来をつくる学生のエコと心

7 国立広島商船高等専門学校 チーム岐美研究室

地域活動を展開する中で、もっと若い力を呼び込めないかと考えたことはないだろうか。学生も自らの成長と未来を考え、活躍の場を探している。

このシリーズでは、環境分野で積極的に活動する学生グループを紹介し、地域と学生のコミュニティ形成のきっかけを提供する。

組織名：チーム岐美（みちよし）研究室
代表者：上本 怜
活動：環境学習会の実施
事務局：国立広島商船高等専門学校 岐美研究室



三原市での出前学習会。受講者に認定書を授与

シリーズ7回目は、「地域活動から学びを広げる」をテーマに活動している国立広島商船高等専門学校 岐美（みちよし）研究室に所属する学生チームのひとつ「チーム岐美研究室」代表の上本怜さんにお話をうかがいました。

「岐美研究室」とはどのような組織ですか
研究室では、地域と触れ合うことで、感じることを学ぶことを大切にしています。

みよう～酸性雨測定ジュニア博士プログラム」を実施しました。

身近なテーマで出前学習会

酸性雨測定ジュニア博士を養成

竹原市の町並み保存地区内には「寺小屋学習塾」という活動拠点があります。また、小学校やイベント会場などで出前学習会も数多く開催しています。

授業やゼミで岐美研究室に所属すると、チームで環境学習プログラムを考え、実施します。これまでに実施してきた内容は、「チーム対抗 ごみ減量・買い物ゲーム」や「再生はがき工作プログラム」など私たちの身近な問題を中心に取り上げています。

活動紹介
私たちのチームは、5人で活動しています。10月には、三原市生涯学習フェスティバルで、「雨は空気のよごれをためている? ～雨のpHを測って

参加者は子ども20人と大人の方が少し。雨が降り出すと自動で蓋が開く雨水採取ボトルの工作や酸性雨の学習、全国から集めた雨水やお茶、涙など身近な液体のpH測定実験を行いました。参加者には、酸性雨とその原因と被害について学んでもらい、みんなの手で私たちの地球を守っていきましょうとかけました。

活動への意気込みを教えてください
他人に思いを伝えるのは難しいというのが正直な感想。でも、身近なことからできるエコがたくさんあります。学習会に参加された方が、そこに気がつくような内容を展開していきたいです。

(地域支援課 馬場田真一)

来年一月で10周年 県内各地のニーズに対応

南は江田島市・呉市、東は福山市・府中市、西は廿日市市など、県内各地に会員があり、住民のニーズに即座に対応できる体制となりました。

活動
初めは、カウンセラー自ら

「環境カウンセラーが世間に知られていない」ということが課題としてあり、より多くの人に環境カウンセラーを知ってもらおう機会として、「ひろしま環境大学」という学習会を企画し、平成十二年度か

内の環境カウンセラー相互の情報交換の場として、またスキルアップの場として、さまざまな事業（学習会の開催や講師派遣など）を実施します。

何より、環境カウンセラーの



県内のカウンセラー分布図 (色塗りが在住市町)

小さな団体でしたが、設立以降に毎年新たに環境カウンセラーに登録された人たちが加わり、現在では会員数数百人という大所帯になりました。会員のほとんどは広島市内に住んでいますが、北は庄原市

が講師となって情報提供をする「ミニ講演会」を行い、カウンセラー相互に学びあうことが主体でした。そのうち、カウンセラーは市民や事業者に対するアドバイスを行う存在であるのにもかかわらず、

現在に至るまで、代表的な事業として実施しています。また、平成十六年度から学習会などのお手伝いをする「講師派遣制度」も行っています。

今後について
今後も、広島県

PRを行い、地域の環境づくりに貢献できるように、活動していきたいと思っています。

食の安全・安心をめざした「広島県食品自主衛生管理認証制度」

※下表は当会がこれまでに認証した施設名(平成20年12月4日現在)

広島県は、衛生の管理基準を満たした食品製造・加工施設を、県独自に認証する制度をスタートさせました。基準に適合した施設は「認証マーク」を商品に貼ることができ、消費者に行き届いた衛生管理をアピールできます。当会は、認証機関として県知事から指定を受け、認証に関わる業務を行っております。

食の安全・安心に対する社会的評価が高まります。

- ① 消費者から自主的な衛生管理の取り組みへの努力が評価されます。
- ② 第三者機関が認証することで客観的に評価され社会的信用が得られます。
- ③ 食中毒などの発生リスクが低減します。
- ④ 大掛かりな設備投資をしなくても衛生水準が上がります。

問合せ先：〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1
(財)広島県環境保健協会 環境生活センター認証検査課

TEL: 082 (293) 1514 (ダイヤル) FAX: 082 (293) 1531

カキ作業場 (2類)	クニヒロ株式会社 占部水産株式会社 株式会社北吉水産 株式会社ヒロシヨク 山栄水産株式会社 仁保加工センター 倉橋島海産株式会社 マルヒロ水産株式会社 広島県漁業協同組合連合会 株式会社大久加工事業部 株式会社オノ	煮豆・佃煮製造業	宝山食品工業株式会社
		弁当・そうざい製造業	株式会社あじかん
		加工のり製造業	株式会社やま磯 株式会社三国屋戸内工場 広島海苔株式会社海田工場
		菓子製造業 (洋生菓子)	パッケンモーツアルト
GPセンター	全農広島鶏卵株式会社 三次GPセンター 世羅GPセンター	菓子製造業 (和生菓子)	株式会社藤い屋本店工場 株式会社藤い屋広島支店工場 株式会社やまだ屋本店工場 株式会社やまだ屋大野工場
		菓子製造業 (その他)	株式会社やまだ屋本店工場 株式会社やまだ屋大野工場